

令和7年度

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 こばやし	代表者	小林大阿	法人・事業所の特徴	運営理念：明るく前向きに相手の立場を尊重、すべての人を平等に、その人らしさを大切に介護サービスに努めます。話しをよく聞ける、待てる介護をします。地域、社会との連携を密に、素直な心で介護にあたります。
事業所名	小規模多機能ホーム こばやし	管理者	池野札子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	1 人	3 人	人	2 人	人	人	4 人	人	11 人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・個々の利用者には何が必要か、何ができるか自立支援の立場で常に意識してケアを行う。・看護師と連携し毎日の排泄記録から体調の悪化を予防する。・ケアマネ業務を同会社の居宅と連携しWチェックしていきます。	・毎日の排泄記録を看護師と共有でき、体調変化に対応し悪化を予防できた。 ・ミーティングや業務の中で「自立支援」を意識して職員同士で声掛け合いができた。	スタッフ個別評価において、無回答者がいるという事は自己評価出来ていないのではないか、改善計画の効果が薄くなるのではないかと、なぜできないのか検討した方がよい。	外部評価の資料として取り組みを実際に見てもらおう。
B. 事業所のしつらえ・環境	緊急時の対応や日常生活の働きかけもチームで対応する。職員同士で声かけあい不適切な対応にならないようにする。	緊急時の対応は多職種で連携し対応で来た。不適切な対応に対しての注意は継続して行かなければならない。	民生委員はともかく地域の方も入りやすいかどうかは今一つ分からない。「工夫」している説明が欲しい。	登録利用者と家族、地域の方との交流の場となる「とんとんカフェ」の定期開催を準備する。
C. 事業所と地域のかかわり	・事業所のイベント情報などを発信して地域の方に知ってもらおう。 ・事業所の見学会を開き地域の方の理解を深める。	「事業所の見学会」は個人情報やプライバシーの関係で開催を保留した。事業所のイベント情報の外部への発信は準備が多く、今回は敬老会のみ行えた。	若い人には認知度が低い・事業所のイベント情報を発信する、事業所の見学会を開き地域の方の理解を深める事は大切だと思う。	事業所の見学会を開き、地域の方の理解を深めてもらう。
D. 地域に向いて本人の暮らしを支える取組み	利用者の状態や生活の節目に「あんしん連携ファイル」の記入をし、多職種で意識して活用する。(利用者の人生記録になる)	利用者の担当者が本人と話し合い行った。利用者自身が意思を伝えられない方もいる、また拒否される方もいた。話し合いの進め方も工夫が必要。	町内の「心配な方」と事業所の関わりで個人情報やプライバシーの関係で情報共有の難しい面を感じている。	地域の役員さんや民生委員さんからの「心配な方」の情報を元に関わり活動を始める。
E. 運営推進会議を活かした取組み	一人暮らしや認知症の方の生活の問題点や対応の仕方を一緒に話し合う。	一つの事例について深掘りした話し合い少なく、一人暮らしや認知症の方の関わり方や生活について毎回話題になり話し合いされました。	個人情報をどこまで共有し得るのか。「心配な方」がいるかどうか事前に区長さんや民生委員さんに聞いてみてはどうか。	テーマを決めて一年を通じて話し合う。
F. 事業所の防災・災害対策	災害時3日分のメニューと材料を準備する。簡易トイレ使用時の汚物の処理と破棄の仕方を決める。怪我や発熱時の応急手当に必要な物品を準備する。	簡易トイレに関してはミニカフェを開き検討出来た。・応急手当の必要物品は確認できました。災害時の食事に関しては職員の誰でも材料の置き場所が分かり調理できるようにしなければならない。	・同町内の〇〇病院さんや当事業所には避難が無理な方の避難場所になってもらいたい。・事業所の防災訓練が何時あるのか分からない。・実際にしてみないと分からない部分がある。	事業所の防災訓練の日時、内容を地域に発信する。